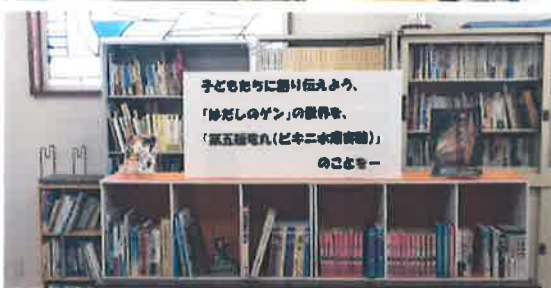
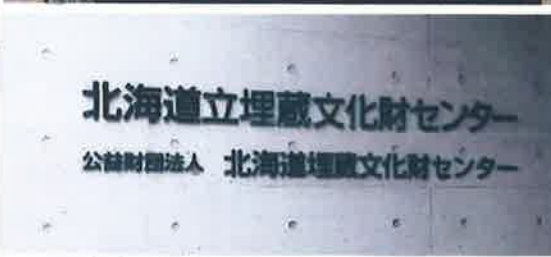




「ノーモア・ヒバクシャ会館」は全国初の民間原爆資料館として 1991 年に開館しました。北海道被爆者協会の会員の皆さんが会館維持や継承活動をされていますが、会員の皆様の高齢化で運営維持がとても厳しい状況になっているそうです。今回は「旅システム」旅行会社の企画でバス移動してこの会館に来ましたが、この場所は JR 平和駅西口の直ぐ横に有ります。会館内には原爆に関する色々な資料やパネル写真が展示されていて、原爆の未曾有の恐ろしさをひしひしと感じます。長崎で被爆された宮本優美子さんが語り部として体験のお話をされ、河野玲子さんが北海道の被爆者の現状等をお話されました。日本人でありながら、また道産子でありながら、原爆被害の実像を何も知らなかった自分に、恥ずかしさを感じ、またこの様な機会を得て原爆について多くの事を知れた事に、この小さな旅に感謝、感謝です。



また今年 2 月に広島教育委員会が中沢啓治著の漫画「はだしのゲン」教材掲載取りやめを表明したが、削除に抗議してか、第五福竜丸ビキニ水爆実験と一緒にコーナーでアピールされておりました。尚第五福竜丸被爆に関しても時の日本政府はひた隠しにして、アメリカ政府に責任を追及しなかった。被爆した船が 1422 艘あったにも関わらず第五福竜丸だけに賠償金ではなく、見舞金として支払われたと言われております。不誠実な対応は今の政府に通じている様です。



次に訪れたのは「北海道立埋蔵文化財センター」、この様な立派な施設が有るとは知りませんでした。国道 12 号線を通り、文京台交差点を右折してしばらくすると広い敷地に立派な建物が見えます。ここに道内各地で発掘された土器や土偶などが展示されております。今回は特別の計らいでバックヤードの発掘物の保管場所を見せて頂きました。人一人通れるのがやっとの通路を保管物が地震等で落ちないように紐でガードされ置かれておりました。センターのご案内役は流暢に通る声で解説され、最期の締め括りとして「勾玉作り」の体験メニューを分かりやすく、実習も含めて親切に指導下さりました。



札幌に居ながら知らない事だらけ、分からない事だらけの小さな旅模様でしたが、とても楽しい時間を過ごせた旅でした

